

水稻の出穂10～15日前までに、水田畦畔や雑草地、牧草地の草刈りを必ず実施し、斑点米カメムシ類の密度を低下させましょう。

### 現在の状況

- 1 イネ科牧草であるイタリアンライグラス（写真）主体の牧草地では、斑点米カメムシ類幼虫の発生を確認しており、7月第2半旬にアカスジカスミカメ成虫の発生量が増加している（図1）。
- 2 7月上旬の水田畦畔すくい取り調査（39圃場）では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は56.4%（平年43.6%）で、平年よりやや高い（図2）。
- 3 畦畔の除草が未実施の圃場で、斑点米カメムシ類が発生している割合が高い（図3）。

### 防除対策

- 1 水稻出穂期に本田内へ侵入するカメムシ類の密度を低下させるため、水稻の出穂10～15日前までに水田畦畔や雑草地、牧草地の草刈りを必ず実施する。なお、同時期の除草剤処理によってイネ科雑草の再出穂時期を遅らせることができる。
- 2 地域内にイネ科雑草が残されていると、カメムシ類の発生源となり近隣の圃場に侵入するので、草刈りは地域一斉に行う。
- 3 本田内のノビエ、イヌホタルイ、シズイ等の雑草は、アカスジカスミカメの発生源となって被害を助長するので、これら雑草がある圃場では本田内の除草を徹底する。



写真 イタリアンライグラスに寄生するアカスジカスミカメ（成虫）

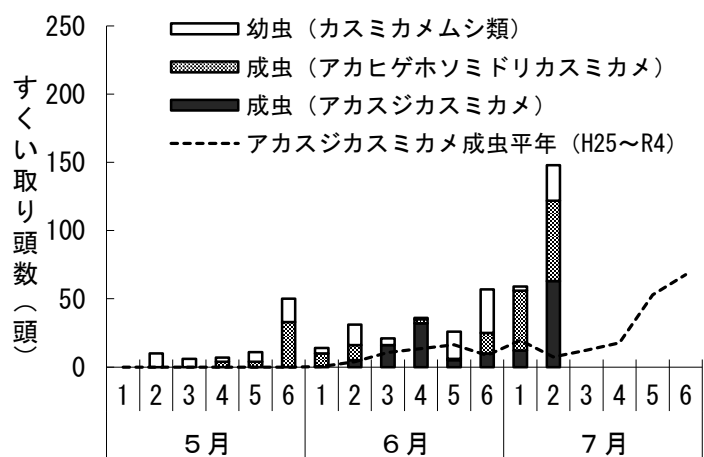


図1 牧草地におけるカスミカメムシ類の発生推移（7月第2半旬現在、農研センター内イタリアンライグラス作付圃場、往復20回振）

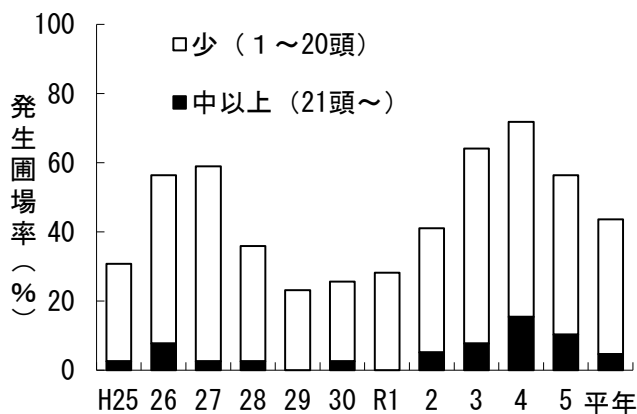


図2 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移  
 (7月上旬巡回調査、水田畦畔、往復20回振)  
 ※斑点米カメムシ類とは、アカスジカスミカメ成虫とアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫とカスミカメムシ類幼虫の合計

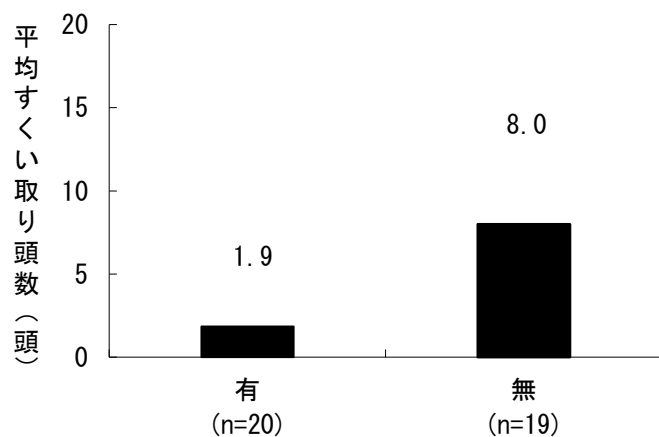


図3 水田畦畔の除草の有無と斑点米カメムシ類平均すくい取り頭数との関係  
 (7月上旬巡回調査、水田畦畔、往復20回振)

☆ 農薬危害防止運動実施中(6/1~8/31) ☆

【利用上の注意】

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

